

中島 淑子 (Yoshiko NAKASHIMA)

学位：博士（教育）

略歴：名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士課程前期課程修了

名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士課程後期課程単位取得満期退学

専門分野：教育方法学

研究課題：1. 小学校算数「量」の学習における操作活動の意義と可能性

2. 自主的な研究サークルにおける教師の学びの成立

3. 子どもの発言に内在する授業諸要因に関する事例研究

【著書】

- ・「小学校『長さの学習』における概念的な理解と操作活動」、的場正美・柴田好章編著『授業研究と授業の創造』（溪水社、2013 年）

【論文】

- ・「算数の量の学習における教育課程の変遷 — 操作活動の分析を通して —」（『愛知文教大学教育研究』第 12 号、2022 年）
- ・「小学校算数『量』の学習における構成的な操作活動の意義と可能性」、博士学位論文 13901 甲第 12970 号（名古屋大学、2020 年）
- ・“How to Bridge the Gap between National Curriculum and Reality of Classroom: Perspective of Lesson Study for Curriculum Improvement”（共著、“The International Conference on Efficiency and Effectiveness of Educational Service at Mongolian National University of Education (MNUE). 2019.”）
- ・「子どもの思考を反映した教授介入:割合の概念的理解の保持について」（共著、『日本教育心理学会総会発表論文集』57、2015 年）
- ・「子どもの論理を反映した教授介入:割合の認知的障害に及ぼす効果」（共著、『日本教育心理学会総会発表論文集』56、2014 年）
- ・「子どもの発言に内在する授業諸要因の抽出に関する事例研究」（共著、『名古屋大学大学院教育発達科学研究科[教育科学]』59-1、2014 年）
- ・「長さ、かさ、広さの任意単位による測定を通して拡張される概念」（『日本数学教育学会第 43 回数学教育論文発表会論文集』2、2010 年）
- ・「小学校低学年「長さ」における操作活動と概念の拡張」（『教育方法学研究』35、2009 年）

【学会発表】

- ・「操作活動による概念形成の成立要因 — 算数科『量の学習』を通して —」（日本教育方法学会第58 回大会、山口大学、2022年10月1日・2日）
- ・「角の大きさの学習における量の大きさの理解」（中部教育学会第70回大会、信州大学、2022年7月3日）
- ・「量の指導原理の再検討」（日本教育方法学会第56 回大会、オンライン開催、2020 年10 月10 日・11 日）
- ・“How to Bridge the Gap between National Curriculum and Reality of Classroom: Perspective of Lesson Study for Curriculum

Improvement”（柴田好章氏との共同研究、“The International Conference on Efficiency and Effectiveness of Educational Service at Mongolian National University of Education (MNUE)”、モンゴル国立教育大学：ウランバートル市、2019 年）

- “Enhancing Lesson Study and Developing Teaching Materials focusing on students learning”（モンゴル授業研究会、モンゴル国立教育大学：ウランバートル市、2017 年）
- 「算数教育における量学習の変遷」（日本教育方法学会第 3 回大会、千葉大学、2017 年）
- “Transition of Misconceptions of the ‘Length’ during math classroom discussion: Merits and Faults of prior knowledge and students’ interaction”（柴田好章氏との共同研究、世界授業研究学会日本大会、名古屋大学：名古屋市、2017 年）
- 「小学校算数教育における分離量と連続量の統一的指導原理の構築 — 量の動態的認識に基づいて —」（日本教育方法学会 第 52 回大会、九州大学、2016 年）
- 「日本の教師たちが学ぶ自主的な研究サークルについて」（世界授業研究学会イギリス大会、エクセター大学：エクセター市、2016 年）
- 「自主的な研究サークルにおける日本の教師たちの学び」（世界授業研究学会インドネシア大会、インドネシア教育大学：バンドン市、2014 年）
- 「長さの測定学習における手続き的な知識と共に形成される概念的な理解」（世界授業研究学会スウェーデン大会、ヨーテボリ大学：ヨーテボリ市、2013 年）
- 『量の測定』における操作活動と概念の拡張」（世界授業研究学会シンガポール大会、国立教育研究所・南洋理工大学・シンガポールアカデミーオブプリンシパル：シンガポール、2012 年）

令和 5（2023）年度ティーチングポートフォリオ

氏 名	中島淑子	職位／役職	特任教授／教職課程研究センター長
-----	------	-------	------------------

1. 教育の理念

教職課程の担当として、急激に変化する現代社会を生き抜いていくことのできる教員を育成することを目指している。最近では、一人1台のタブレットを利用した教育が行われるようになり、自分たちが受けてきた教育とは全く異なる変革があった。どのような状況においても対応することができ、社会に貢献できる人材となるには、どのような知識や実践力が必要であるのだろうか。

全てを解決できる回答ではないが、まずは深い教養を身につけさせることである。深い教養とは、知識だけではない。情報のあふれた現代において、正しい情報を見極める力も含む。そして、得られた情報を解釈して、自分なりの考えをもち、わかりやすく発信することが必要である。

深い教養の上に立ち、教員としての実践力を身につけさせることを目標とする。

2. 教育活動の内容

2022 年度

教職概論

道徳教育論

教育方法論

アカデミアゼミ A・B

教職クラブ顧問

伊那西高等学校との高大連携事業講師（10 月 13 日）

瀬戸北総合高等学校の出張講義（11 月 14 日）

愛知啓成高校オープンキャンパスの体験講座講師（3 月 8 日）

学び合う学び研究所 セミナー講師（3 月 11 日）

2023 年度

教職概論

道徳教育論

アカデミアゼミ C

3. 教育の方法

深い教養を基本として、実践力のある教員の育成をめざし、教育の方法として体験活動を重視している。

教職概論の授業では 10 分、教育方法、道徳教育論の授業では 50 分の模擬授業を取り入れている。一人の学生が教師役となり授業を行い、それ以外の学生が生徒役になり、授業を行なう。そのことにより授業を受ける生徒の気持ちを通して、良い授業とは何かを考えることができる。

1 年生の教職概論では、2021 年度までは、教職に関する法律や待遇についての内容を、私が講義をする形であった。しかし、学生が興味をもたず、ただ内容を暗記するという形であった。そこで、2022 年度の教職概論では、教員に関する法律や待遇についての内容を、学生一人ひとりに課題として与え、そ

れについて発表させる形を行った。学生相互の発表を興味深く聞くことができた。そこで、2023 年度では、課題を学生一人ひとりに与えるのではなく、学生が興味をもった教育に関する課題について調べて発表させる形をとった。学生の選択により偏りを心配したが、教員の多忙化、心を病む教員、不適格教員に対する問題、不登校問題、いじめ問題、外国人の教育問題、教員の給料、画一的で受け身的な教育、教育格差のように、おおむね教職概論として扱うべき内容が網羅された。これらの発表をもとに、教師側からは、それに関する法律関係についての資料を提供する予定である。

2022 年度の 3 年生の教職方法論では、デューイ等、著名な教育関係の書籍を積極的に読ませ、感想文を書かせた。論作文対策を兼ねて、分かりやすく考えを述べる力を育てた。デューイが今年度の愛知県教員採用試験に出題された。採用試験の対策だけでなく、体験を重視するデューイの思想は、教員としての資質を育てる力になると考える。

そして、教員の仕事は、話をするということが重要であることから、いずれの授業においても、グループでの話し合いを取り入れ、コミュニケーション能力を高めるようにした。

2020 年度、2021 年度と、コロナ感染症のため実施できなかった小学校での体験活動を、2022 年 9 月 13 日（火）、14 日（水）の二日間、小牧市内の小学校において実施した。1 学年から 3 学年までの 24 名の教職の学生が体験活動に参加した。参加を通して、教員になりたいという意志を固めた学生がおり、有意義な活動であった。

12 月 10 日（土）には、「文教子どもフェスタ in 小牧」を開催した。近隣の幼児や小学生、保護者が 130 名集まり、教職学生が主催する「割り箸鉄砲で遊ぶ」「ヨーヨー釣り」といった遊びのコーナーを楽しんだ。幼児や小学生との触れ合いを通して、教員としての意欲を高めることができた。

4. 教育活動の成果・評価と改善方策

授業評価では、模擬授業を行うことにより、授業の難しさが分かり、他の学生の授業を受けることにより、分かりやすい発問について考えさせられたという感想が多かった。また、課題について学生が発表するという学習により、様々なことが学べたという感想があった。そして、グループでさまざまな課題について話し合うことにより、一人一人異なる考えを持っていることが分かり、自分の考えを深めることができたという感想があった。

教育の歴史や、教育の偉人等の知識を伝達する学習に対する評価がなかったことが課題である。

5. 今後の目標

講義形式に対しては、あまり良い評価がなく、発表や、グループでの話し合いの形式が高評価であった。学生が主体的に活動する学習を、より発展させていく。

課題としては、教育の歴史や、偉人等の学習において、学生が主体的に調べることができるような指導方法を見つけない。